

## 地域医療支援病院業務報告書

令和7年 9月 8日

愛知県知事殿

開設者 住 所

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

氏 名

公立大学法人名古屋市立大学

理事長

印

下記のとおり、令和6年度の業務に関して報告します。

記

## 1 病院の名称等

名 称	名古屋市立大学医学部附属東部医療センター					
所 在 地	名古屋市千種区若水一丁目2番23号					
診 療 科 名	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、内分泌・糖尿病内科、疼痛緩和内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、脳神経外科、乳腺・内分泌外科、小児外科、整形外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、小児泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科口腔外科					
病 床 数	精 神	感 染 症	結 核	療 養	一 般	合 計
	0	10	0	0	488	498

## 2 施設の構造設備

施 設 名	設 備 概 要
集 中 治 療 室	（主な設備）生体情報監視装置、救急蘇生器具一式、小外科セット、人工呼吸器、除細動器、血液ガス・電解質分析装置、簡易血糖測定装置、心電計、輸液ポンプ、シリンジポンプ、ポータブルレントゲン撮影装置、急性血液浄化装置、心拍出量測定装置、超音波診断装置、体温加湿装置、低圧持続吸引装置、血液加温器、経皮的心肺補助装置 病床数 I C U 6床、C C U 4床、H C U 6床
化 学 検 查 室	（主な設備）生化学自動分析装置、全自動化学発光酵素免疫測定装置、多項目自動血球分析装置、塗抹標本作製装置、全自動血液凝固測定装置、血液ガス分析装置、全自動尿分析装置、全自動グリコヘモグロビン測定装置、全自動輸血検査システム、自動採血管準備システム、臨床検査システム、顕微鏡

細菌検査室	(主な設備) セーフティキャビネット、顕微鏡、血液培養自動分析装置、全自動迅速同定・感性性測定装置、質量分析装置、孵卵器、自動遺伝子解析装置
病理検査室	(主な設備) 自動包埋装置、自動染色装置、ミクロトーム、クリオスタッフ、顕微鏡
病理解剖室	(主な設備) 解剖台、遺体用冷蔵庫、写真撮影装置
研究室	(主な設備) 机、椅子、ソファーセット、ロッカー
講義室	室数4室 収容定員280人 多目的ホール（救急・外来棟4階・収容定員200人）、臨床研修センター（救急・外来棟4階・収容定員20人）会議室1（入院・診療棟3階、収容定員30人）、会議室2（入院・診療棟3階、収容定員30人）
図書室	室数1室 蔵書数 95,000冊程度
救急用又は患者搬送用自動車	(主な設備) ストレッチャー固定装置 保有台数1台（主な設備）
医薬品情報管理室	〔専用室の場合〕 床面積4.5m <sup>2</sup> 〔共用室の場合〕 室と共に

備考1 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

2 規則第9条の2第1項各号に掲げる事項を記載した書類を添付すること。

別紙1

紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績

1 算定期間 令和6年 4月 1日 ~ 令和7年 3月 31日

2 紹介率 93.2%

紹介患者の数 (A)	初診患者の数 (B)	紹介率 (A / B × 100)
14,076人	15,088人	93.2%

3 逆紹介率 79.9%

逆紹介患者の数 (C)	初診患者の数 (B)	逆紹介率 (C / B × 100)
12,070人	15,088人	79.9%

別添1 参照

※1 各人数については、前年度の延べ人数を記入すること。

※2 紹介率及び逆紹介率は、小数点以下第1位まで記入すること。

※3 紹介率が80%以上であることを承認の要件とする場合で、紹介率が65%以上80%未満の病院にあっては、今後、2年間で紹介率を80%以上とするための具体的な年次計画を明らかにする書類を添付すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

共同利用の実績  
(地域の医療従事者による診療、研究又は研修のための利用)

1 共同利用の実績

※1 前年度の共同利用を行った医療機関の延べ機関数 (887件)

これらの医療機関のうち申請者と直接関係のない医療機関の延べ機関数 (863件)

共同利用に係る病床の病床利用率等 (0.0%)

2 共同利用の範囲等

・開放型病床 図書室 登録医室

・医療機器 (CT、MRI、RI、上部消化管内視鏡、腹部超音波)

共同利用に関する規程	<input checked="" type="radio"/> 有	・	無
利用医師等登録制度の担当者	氏 名		
	職 種	地域医療連携室	主幹

別添2 参照

4 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住所	主たる診療科	申請者との経営上の関係
別添3 「登録医療機関名簿の通り」				

※4 申請に係る病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関にのみ記入すること。

5 常時共同利用可能な病床数 5床

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

## 救急医療提供の実績

## 1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況

No.	職種	氏名	勤務の様態	勤務時間	備考
			常勤 非常勤	専従 非専従	

別添4参照

## 2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	名称 ( ICU/CCU/HCU ) 16床
専用病床	名称 ( ) 床

※ 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記入すること。

## 3 重症救急患者に必要な検査又は治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設備概要	24時間使用の可否
集中治療室	ICU 376.64m <sup>2</sup>  CCU 80.81m <sup>2</sup>  HCU 81.20m <sup>2</sup>	(主な設備) 生体情報監視装置、救急蘇生器具一式、小外科セット、人工呼吸器、除細動器、血液ガス・電解質分析装置、簡易血糖測定装置、心電計、輸液ポンプ、シリジポンプ、ポータブルレントゲン撮影装置、急性血液浄化装置、心拍出量測定装置  超音波診断装置、体温加温装置、低圧持続吸引装置、血液加温器、経皮的心肺補助装置	可能
救急外来	559.37m <sup>2</sup>	(主な設備) 超音波診断装置、自動体外除細動器、簡易式人工呼吸装置、生体情報モニター、血液ガス分析装置  新型コロナウィルス迅速検査装置	可能
手術室	688.10m <sup>2</sup>	(主な設備) 人工心肺装置、体腔鏡手術装置、パルスオキシメーター、麻酔器、骨手術器械システム、超音波凝固切開装置	可能

#### 4 救急医療の提供の実績

救急用又は患者搬送用の自動車により搬入した救急患者の延べ数	8, 050人 ( 3, 847人)
上記以外の救急患者の延べ数	7, 079人 ( 1, 439人)
合計	15, 129人 ( 5, 286人)

※ ( ) 内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

#### 5 保有する救急用又は患者搬送用の自動車の出動回数

162 回

#### 6 備考

平成30年 2月1日 救命救急センター 指定

※特定の診療科において、重症救急患者の受け入れ体制を確保する場合は、その旨を記入すること。  
既に、「救急病院等を定める省令」(昭和39年厚生省令第8号)に基づき知事の救急病院の認定を受けている病院及び「救急医療対策の整備事業について」(昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知)に基づき救急医療を実施している病院にあっては、その旨を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

## 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

## 1 研修の内容

## 2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	18回
(2) (1) の合計研修者数	837人

※ 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものと記入すること。

(2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

## 3 研修の体制

- (1) 研修プログラムの有無 ・無
- (2) 研修委員会の有無 ・無
- (3) 研修指導者

氏 名	職 種	診 療 科	役 職 等	臨 床 経 驚 年 数	備 考
				年	

別添5, 6 参照

## 4 研修実施のための施設及び設備の概要

施 設 名	床 面 積	設 備 概 要
多目的ホール	25. 88m <sup>2</sup>	(主な設備) 机、椅子、プロジェクター、スクリーン、ホワイトボード、マイク設備、シャーカステン
臨床研修センター	44. 60m <sup>2</sup>	(主な設備) 机、椅子、プロジェクター、スクリーン
会議室 1	55. 76m <sup>2</sup>	(主な設備) 机、椅子、マイク設備、プロジェクター、スクリーン
会議室 2	52. 01m <sup>2</sup>	(主な設備) 机、椅子、マイク設備、プロジェクター、スクリーン
図書室	73. 09m <sup>2</sup>	(主な設備) 書架、閲覧テーブル、パソコン

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

## 1 管理責任者等

	氏名	職種	役職等
管理責任者の 氏名、職種、役職等		医師	病院長
管理担当者の 氏名、職種、役職等		医師	情報管理室長

## 2 諸記録の保管場所及び分類方法

	保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約	病院日誌 →管理課 各科診療日誌 →看護部 処方せん →薬剤科 手術記録以下 →病院情報システムサーバー内	病院日誌 →日付順 各科診療日誌 →日付順 処方せん →入外別日付順 手術記録以下 →病院情報システムによる
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	地域医療連携室
	救急医療の提供の実績	管理課
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	地域医療連携室
	閲覧の実績	管理課
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	地域医療連携室

※ 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法  
及び閲覧の実績

閲覧責任者	氏名	職種	役職等		
		医師	病院長		
閲覧担当者	氏名	職種	役職等		
		医師	地域医療連携センター長		
閲覧場所	医事課事務室内およびTOBUネット経由登録医療機関インターネットパソコン端末				
総閲覧件数	医師	歯科医師	地方公共団体	その他	合計
	(カルテ開示) 0件	0件	0件	121件	121件
	(カルテ閲覧) 2件	0件	0件	2件	4件
	(TOBUネット) 851件	0件	0件	0件	851件
	(合計) 853件	0件	0件	123件	976件
閲覧手続きの概要	<p>診療情報提供の申出者（原則、患者本人）は、直接来院の上、診療情報提供要綱に基づいて手続きを行う。</p> <p>登録医及び連携医は、医師課で手続きを行い、日程等を調整のうえ閲覧することができる。</p> <p>地域医療連携ネットワークシステムを接続している登録医については、患者からの同意（同意書）を得た後に申し出をすると、地域医療連携室で閲覧調整を行う。（追加資料：「診療情報提供要綱」「TOBUネット使用規約」「TOBUネット運用細則」・「個人情報保護方針」・「個人情報利用目的について」）</p>				

医療法施行規則第9条の19第1項に規定する委員会の開催の実績

1 委員会の開催回数 4回

2 委員会における議事の概要

※委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

委員名簿 別添7-1参照

【第一回】「地域医療支援病院運営委員会・開放型病床運営協議会」

日時：令和6年6月19日（水）14時15分～14時40分

会議方式：直接来院とWEBとのハイブリット開催 21名出席/25名中

議題：令和5年度 実績報告および質疑応答

（病院概要、診療実績、登録医の推移、紹介状況、救急受け入れ、講演会・研修会報告、市民健康講座、開放型病床利用率、TOBUネット利用状況）

別添7-2参照

【第二回】「地域医療支援病院運営委員会・開放型病床運営協議会」

日時：令和6年9月18日（水）14時15分～14時40分

会議方式：直接来院とWEBとのハイブリット開催 22名出席/25名中

議題：第1回議事録確認 令和6年度 実績報告および質疑応答（4月～7月分）

（紹介状況、紹介率・逆紹介率、救急受け入れ、講演会・研修会関連、開放型病床利用率  
TOBUネット利用状況）

別添7-3参照

【第三回】「地域医療支援病院運営委員会・開放型病床運営協議会」

日時：令和6年12月18日（水）14時15分～14時40分

会議方式：直接来院とWEBとのハイブリット開催 21名出席/25名中

議題：第2回議事録確認 令和6年度 実績報告および質疑応答（8月～10月分）

（紹介状況、紹介率・逆紹介率、救急受け入れ、講演会・研修会関連、開放型病床利用率  
TOBUネット利用状況、カルナコネクトインターネット予約システム進捗状況）

別添7-4参照

【第四回】「地域医療支援病院運営委員会・開放型病床運営協議会」20名出席/21名中

「病診連携システム運営協議会」 38名出席/50名中

日時：令和7年3月19日（水）14時15分～14時40分

会議方式：直接来院とWEBとのハイブリット開催

議題：第3回議事録確認 令和6年度 実績報告および質疑応答（11月～1月分）

（紹介状況、紹介率・逆紹介率、救急受け入れ、講演会・研修会関連、開放型病床利用率  
TOBUネット利用状況、カルナコネクトインターネット予約システムについて）

別添7-5参照

【規程】地域医療支援病院運営委員会規程 別添7-6参照

## 患者相談の実績

患者相談を行った場所	医療相談窓口、患者サポートセンター、外来診療室 病棟（カンファレンス室、面談室）			
患者相談担当者	氏名	職種	役職	等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士</li> <li>・社会福祉士</li> <li>・社会福祉士</li> <li>・看護師</li> <li>・その他（社会福祉士3名、看護師6名、がん相談員4名）</li> </ul>				
患者相談件数	4357件			

## 患者相談の概要

## 【患者相談の概要】

## 医療福祉相談 ・医療費、生活費に関する問題の解決、調整援助（42件）

- ・受診や入院についての手続き、不安等の問題解決（35件）
- ・家族関係、患者療養中の家事、育児、教育、職業等の問題の解決（21件）
- ・在宅ケア諸サービスの活用を援助（32件）
- ・関係機関に対する情報提供、及び情報収集（41件）
- ・転院のための医療機関、退院・退所後の社会福祉施設等の選定を援助（40件）
- ・DV、小児・高齢者虐待（6件） ・その他（10件）

## 外来支援

- ・医療系サービス（30件）
- ・介護サービス（19件）
- ・施設入所調整（8件）
- ・受診・入院調整（9件）
- ・転院（27件）
- ・その他（10件）

## 退院支援

- ・医療系サービス（184件）
- ・介護サービス（507件）
- ・施設入所調整（834件）
- ・受診・入院調整（12件）
- ・障害福祉サービス（23件）
- ・転院調整（1851件）
- ・療育調整（6件）
- ・その他（52件）

## 患者サポートセンター

- ・一般患者相談（苦情：55件、医療：162件）
- ・がん相談（対面：288件、電話：46件）

## その他（7件）

## 【相談対応事例】

別添8 資料参照

※ 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

## 居宅等における医療の提供の推進に関する支援の状況

## 居宅等医療提供施設等における連携の緊密化のための支援等の実績

## 1) 在宅支援・調整連絡会議において講演会・交流会を開催（会場参加とWebのハイブリッド形式）

	テーマ	講師	参加者
第1回	地域における感染対策の重要性	感染管理認定看護師	会場40名、web27施設
第2回	「緩和ケアチームについて」「がん患者の痛みの治療」	疼痛緩和内科医師 緩和ケア委員長（医師）	会場61名、web23施設
第3回	「もっと知りたい“がん相談支援センターのこと”」「高齢者における緩和ケア」	がん相談専門員 緩和ケア認定看護師	会場42名、web19施設

## 2) 看護部と協働で「共に学ぶ会」を開催（会場参加とWebのハイブリッド形式）

	テーマ	講師	参加者
第1回	「高齢者とその家族が住み慣れた地域でいつまでも安心して生活していくために」	地域講師依頼	会場45名、web13施設
第2回	「在宅でのスキントラブル予防とケア」	皮膚排泄ケア認定看護師	会場37名、web14施設
第3回	「地域とつないだ看護実践」	院外事例：5事例 院内事例：4事例	会場59名、web25施設

## 3) 講師として認定看護師の派遣

- ・デイサービスのイベント
- ・まちかど保健室（名古屋市療養サービス事業団）

## 医療を受ける者又は地域の医療提供施設に対する情報の提供の実績

- 1) 退院調整 3397件
- 2) 介護支援等連携指導 110件
- 3) 退院時共同指導 193件
- 4) 多機関共同指導 36件

## その他居宅等における医療の提供の推進に関し必要な支援の実績

- 1) 医療処置のある患者（点滴管理、輸液ポンプ使用、在宅酸素、人工呼吸器、胃瘻の管理、膀胱留置カテーテル管理、痰の吸引等）については、患者もしくは家族（介護者）が手技の習得が確実にできるまで病棟看護師が中心となり指導を継続している。
- 2) 輸液ポンプ、人工呼吸器、在宅酸素など高度な医療機器を在宅で使用する場合には、臨床工学技士からも取り扱いについての指導を行っている。

## その他地域医療支援病院に求められる取組みの状況

## 1 連携体制を確保するための専用の室、担当者

専用の室の名称	地域医療連携センター		
担当者	氏名	職種	役職等
		医師	地域医療連携センター長
		看護師	地域医療連携室主幹

## 2 病院の機能に関する第三者による評価

評価を行った機関名	公益財団法人日本医療機能評価機構 機能種別版評価項目3rd G : Ver. 3.0～認定番号JC307-5号
評価を受けた時期	認定期間：2024年9月27日～2029年9月26日

※ 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。別添9参照

## 3 退院調整部門の取組

退院調整部門の実績
1) 在宅復帰支援 735件
2) 転院調整 1560件 (内、救急患者連携搬送「早期転院」99件)
3) 施設入所調整 841件

## 4 地域連携を促進するための取組みの実績

策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容
種類：名古屋脳卒中地域連携協議会脳卒中パス 年間129件利用
内容：回復期病院8病院、亜急性（地域包括ケア）病床2病院、療養型病床1病院と契約。
地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み
年1回 脳卒中地域連携協議会拡大合同会議・学術講演会を開催

## 5 病院が果たしている役割に関する情報発信の実績

情報発信の方法
地域医療支援病院運営委員会 講演会 ホームページ 広報誌 郵送 掲示 配布物等

内容等の概要

- ・紹介患者、診療に関するこ 診療・検査予約方法 施設、設備の共同利用 講演会等の案内
- ・かかりつけ医推進ポスター チラシ等の掲示と配布

備考 用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とする。